パチンコ・パチスロ依存問題の予防と解決に取り組む事業・研究への支援

「依存の問題を抱える人を対象とした生活の改善に重点を置いた相談・支援」事業

ギャンブル等依存の問題には個別性があり、ニーズに適した柔軟な向き合い方が必要

パチンコやギャンブルへの“のめり込み”には、個別の原因や背景がある。そのため、その解決にあたっても、それぞれの原因や背景にある問題に直接、向き合う必要がある。ギャンブル等の依存を病気ではなく、生活・人生の問題と捉え、支援活動を続けてきた団体が、生活の安定を目的に、個別対応の無料相談などの事業を行った。

入所者一人ひとりに合ったカリキュラムで支援しつつ畑仕事など体を動かすプログラムも実施

依存問題を抱える人の個別性に着目し、個々の課題に寄り添った支援を実施

我が国で初となるギャンブル依存症回復（入所）施設として、2000年に横浜市において設立されたのが「ワンデーポート」である。これまでの入所者は約700名で、主な事業は、依存の問題を抱えた人の回復支援、その家族への相談（対面、電話）支援、セミナーを通じての普及啓発などで、パチンコ依存およびパチスロ依存問題の相談サービスを提供している認定NPO法人「リカバリーサポート・ネットワーク」やパチンコ関係団体などとも情報交換や交流を続けている。

当初は、自助グループの考え方を指針に、グループセラピーを主体としたカリキュラムを組んでいたが、開設から4～5年が経過したころに、依存の問題を抱える人には個別性があり、自助グループの考え方が合わない人が存在することに気づいたことから、個々の利用者の課題に寄り添い、常に新しい視点で支援活動を行うような方向に歩み出した。

「ギャンブル等依存症」は国家が主体となって対策をとることとなり、国の定める基本計画のもと、行政機関や医療機関の主導で相談支援事業が行われている。依存問題に関して国や行政機関が推奨する方法は、一口に言えば短期的なマニュアル対応だが、それに対して同団体では、自分たちの20年の活動から見えてきた必要な対策とは開きがあると感じている。ギャンブル等の依存の問題を抱えた人の中には、現実的には知的障がいや発達障がい、あるいは障がいとまでは診断できないものの何らかの弱さを抱えた人がおり、マニュアル対応では難しい人が多い。また、長期的に金銭管理などの生活支援が必要な人が一定数いるのも事実だという。

個別理解と個別対応をキーワードにあらかじめプログラムを決めない支援

パチンコやギャンブルへのいわゆる“のめり込み”には原因や背景などがあり、それぞれ個別的な問題を抱えているため、必要となる支援もその個別性に対応してそれぞれ違うこと、ギャンブルそのものではなく、その人の生活や人生そのものにアプローチすることが重要だという考えのもと、同団体ではPOSCからの助成を受け、「個別理解と個別対応を」をキーワードとする標記の事業を実施した。

この事業は、あらかじめプログラムを決めて行うのではなく、あくまでもその人に必要な支援を提供することがポイントとなっている。たとえば、Aさんについては対面で話を聞き、助言をすることで終了。Bさんは対面で話を聞き、助言をした後で、精神科医による発達障がい検査への同行。Cさんは対面で話を聞き、助言をした後で、入所カリキュラムに基づいた継続支援など、それぞれのニーズや問題背景に沿った支援を提供した。また、畑仕事やウォーキング大会参加など、日常的な余暇支援なども行った。これらの事業の成果や課題は会報やSNSなどで発信したが、それが社会啓発にも役立ったのではないかという。

「コロナ感染拡大の影響で、外出や余暇活動の制限を受けましたが、4月半ばから畑仕事に挑戦し、キュウリやトマトなどの夏野菜を収穫することができました。日光に当たり体を動かし、収穫の喜びを体験できたことは、利用者の皆さんの健康にも役立つ体験だったと思います。また、緊急事態宣言の影響があるのかどうか定かではありませんが、ネットを介した公営競技やゲーム課金による相談が増加しました」と、同団体では振り返る。

ウォーキング大会やマラソン大会への参加など、日常的な余暇も支援

助成団体:認定特定非営利活動法人　ワンデーポート　http://www5f.biglobe.ne.jp/~onedayport/

大きなテーマに対して助成金が柔軟に使えることに感謝しています

いただいた助成金が柔軟に使えるPOSCの助成は、本当に助かります。パチンコ・パチスロへの過度なのめり込みは減少し、ネットを介したギャンブルに移行していると今回の事業により確認することができたことは成果の一つではないかと考えています。

認定特定非営利活動法人　ワンデーポート
施設長　**中村 努**さん